

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790800122		
法人名	社会福祉法人啓和会		
事業所名	グループホーム夢の森		
所在地	喜多方市熱塩加納町米岡字下平乙608-5		
自己評価作成日	令和5年5月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	令和6年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流を深め、人と人の関わりを大切にしています。 ・四季を感じられる行事提供や、外に出る機会を多くとり、自然に触れられる環境を提供しています。 ・野菜を作り、利用者様に召し上がって頂く事で、季節を感じて頂けるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域とのかかわり・連携を深めることを大切に、消防団や地域の防災組織と協力し、地域の力、事業所の持っている力を活かすことを考え、地域密着型サービスの役割を理解している。</p> <p>職員が日々のケアで感じたことを、自由に互いを尊敬しながら話し合えるよう、事業所内の風通しを良くすることで、利用者・家族・職員が信頼し合い、出された意見がケアの向上に役立っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念「笑顔」をつくり、理念を中心に管理者と職員は実践につなげている。	利用者も職員も笑顔で、安定した気持ちでいられることでより良い介護に結び付くと考え、職員が常に実践できる理念を職員で作成している。レクリエーション活動中、職員は常に明るく前向きで、理念が共有され、活かされていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	地域の自治会組織に加入させて頂いており、毎年、町内運動会に参加していたが、コロナの影響で参加できず。3ヶ月に1回、区長様や各地域の施設にホームの新聞を配布しており施設の様子を地域の方にお知らせしている。	これまで、保育園児の訪問、中学生の夏・冬のボランティアがあり、消防団の視察を受け入れたり、地域の運動会に参加し、交流を行っている。事業所の年間行事のそば会に地域の方を招待したり、事業所付近の散歩を行い、地域の方々と挨拶している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通常認知症カフェを2ヶ月に1回開催していますが、新型コロナの影響で本年は実施できず。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて、ホームでのケアサービスの状況を伝え、意見・助言を頂き、サービスの向上に活かせるよう努めている。	町の運動会への参加、消防団の訪問、廃品回収の協力の依頼が提案され、消防団との合同避難訓練や廃品回収で地域の方とつながりを深めている。参加された方、一人ひとりから意見を聞く時間をもち、質問の有無を確認しながら会議を進行している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡協議会への参加や、運営推進会議などで、高齢福祉課の担当者様と話す機会を設け、協力関係を築ける様に取り組んでいる。また、日頃から何かあれば相談も行うようにしている。	運営推進会議の開催について住民課長と感染状況等の相談をしたり、書類作成の不明な点があれば担当者で相談している。市主催の研修会の参加や、担当部署とコミュニケーションを多く持つようにし、問題には一緒に取り組んで貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の該当はないが、定期的に勉強会を開催し、身体拘束マニュアル11項目や身体拘束について理解し、全職員がケアの知識を共有しながら取り組んでいる。	いかなる場合も身体拘束を行わない、を基本にしている。身体拘束に関する内部研修を行い、言葉の拘束については、職員同士で注意しあえる環境を作ることを重視している。一人歩きする方には、何気ない声掛けをして付き添うようにしている。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修会や、事業所内研修を行い、虐待にあたる項目や、内容について勉強し、事業所内で周知している。また、職員同士注意し合える環境を作り、予防している。	高齢者虐待防止関連法を勉強会で学んでいる。不適切なケアについて、決してしないと職員会議で確認し、話し合っている。管理者は職員の疲労やストレスが、利用者へのケアに影響していないか意識して観察している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいないが、職員全体で理解できるように、資料に基き各自勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にご家族に重要事項説明書、契約書など、文書で説明し、ご理解を得た上で契約を結んでいる。解約時また法改正の際は、ご家族に説明し納得を得た上で、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルスで面会等は実施できなかったため、職員は、利用者様の気持ちに寄り添い、話を引き出し、管理者や職員で共有し、家族来所時は、要望や意見も伺った上で、サービスに反映できるよう取り組んでいる。	意見や要望を出して貰えるよう信頼関係を大切に、関わる際は誠意をもつようにしている。寄せられた意見や要望は、申し送りノートで共有し周知し、利用者・家族からの意見や要望が、ケアサービスの質の向上に役立つと理解している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	月1回職員会議を開催し、全員で話し合える機会を設け、意見等を聞くようにしている。また、日々の申し送り時、職員の気づきを共有し、運営・ケアサービスに反映できるよう努めている。	食事内容の見直しなどの意見があり、食事のレパートリーを増やすことで業務改善に繋がっている。職員との話しやすい環境を整えるように努め、意見が出やすいようにしている。職員の向上心を高めるため自己目標のサポートを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は法人運営にあたり、職員がやりがいを持って働ける就業環境整備に努めている。人事考課を年2回実施、部下と面談する機会を確保し、評価を行い賞与等に反映している。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修への参加を促し、学習できる機会を設けている。また、実務者研修を受講している職員には、勉強のサポートや、休日の調整などを行い、学習しやすい環境を作っている。新人職員に対しては、働きながら仕事の内容等について教える機会を作り、日頃からトレーニング出来るようにしている。	職員の立場や経験、習熟度に応じて指導、教育を行い、計画的な人材育成に取り組んでいる。職員会議の時間や、資料回覧で、一人の研修の機会を全職員が共有し、利用者の立場で物事を考え、実践することに結び付けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、法人内グループホームの管理者会議を開催し、管理者同士で情報交換をしている。又、市のグループホーム連絡会に参加し、参加者と意見交換を行い、サービスの多様性を理解し、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の情報を職員同士で共有し、関わり方や、本人が不安な事などについて、職員同士話し合い、本人に寄り添いながら、安心した生活が送れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	状況の変化等があった時は、ご家族と話し合う機会を設け、不安な事・要望等、ご家族の思いを聞き取り、ケアに反映出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が、今何を必要としているのか、声を聴き、サービス利用に反映できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする中で、人生の先輩としてご利用者から教えて頂いたり、出来る事や、したい事などを、出来る限り自己決定して頂きながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が不安な時は、ご家族に相談したり、自宅での生活を伺い、声かけや対応に活かしている。また、何かご本人の事で変化等あった場合は、ご家族に相談し、情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との写真(ラミネートにしたり)を居室に飾り大切な人との関係が途切れないように支援している。また、友人や知人の方とも電話など行い関係が継続できている。	面会、手紙、電話での会話などで、家族の希望に反しない、近所、親戚、知人の方などのこれまでの関係が継続できるようにしている。利用者の希望で洋服を購入するため、馴染みの衣料品店へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の生活や認知度を把握し、席や、おやつの時間・台所のお手伝い等、ご利用者同士楽しく会話できる環境づくりに努めている。また、常に目配り・気配りをし、トラブルが少なく過ごせるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族と再会の折り、最近のご様子を伺っている。また、気兼ねなくご来所下さるように声かけしている。退所後も相談の連絡があった際は、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	ご利用者の生活歴を把握し、一人ひとりの要望・意向を引き出しながら支援している。また、随時ご家族からも電話や来所時、聞き取りをし、情報を得ている。	入浴時など、利用者と職員が一對一になる環境で、思いを聞くことが多く、兄妹との面会希望には、家族と話し合い、電話で会話する機会を設けている。把握した思いや意向は、職員会議等で共有し、どのように叶えられるか検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、基本情報を作成し、ご本人やご家族・ケアマネ、入院時であれば医療機関等へ情報提供を依頼し、情報の把握に努めている。また、サービス担当者会議にて、本人が馴染める暮らしが出来るよう関係者から話を聞き、ケアに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを実施している。体調の観察を行い、一人ひとりの状況を個別にて記録し、職員間で状況の把握、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月定例会時に、サービス担当者会議を開催している。その他、必要に応じ話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成している。ご家族は立ち会っていないが、事前に要望等を伺い、反映できるよう努めている。	その人の持っている力を活かしたり維持できるように、在宅の延長、自立支援のケアを取り入れている。職員が現場で実践的な対応ができるよう、職員の意見はミーティングや申し送り確認し、臨機応変に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録等を活用しながら、サービス担当者会議で情報を共有し、モニタリングを行い、ケアの改善、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者のニーズに対し、ご家族と随時話し合いを持ち、支援している。又、本人がいきいきと生活できるよう、ご本人を中心としたニーズで、介護計画に添って取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響で外出が制限される中で、施設で出来る色々な行事を実施して、楽しんで頂けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっており、基本的に通院介助は事業所が行う事としているが、ご家族の同行やご家族対応での受診を含めて対応している。受診の結果は電話やお便りなどを通して情報共有している。	協力医療機関とは、必要時は相談できる関係が築かれている。歯科や耳鼻科などの専門診療科目も含め、かかりつけの病院に職員が同行し、受診時の利用者の状況を説明している。受診結果は手紙や電話で家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には、医療専門医(看護師または訪問看護)の体制は整っていないが、身体の変化、急変時の対応は、関係医療機関に相談し、必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ケースワーカーを通して状況確認している。ご家族への連絡も行い現状の確認をし、退院時には、情報を共有し、連携を図り、ケアに活かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の診断により、病状の重度化や加齢により終末期の状態であると判断された時や、日頃の身体状況の変化がある場合は、医療機関、家族への説明、状況報告している。	重度化や終末期には、医療機関と相談し、医療行為が必要な際は、入院や介護医療院への相談を家族と行っている。事業所として、できること・できないことを家族に説明し、医師や看護師と相談し、連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成し、対応方法を申し送り、職員間でも急変時の対応ができるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震の災害時に、昼夜を問わずご利用者が避難できるよう、日中、夜間それぞれの想定で避難訓練を実施している。また、出火場所等を毎回変更し、訓練を行い、全職員が対応できるよう取り組んでいる。	訓練時に、消防署・地域の消防団に立ち合って貰っている。職員は年に一度以上訓練に参加できるようにし、職員だけの避難誘導の限界を理解し、日ごろから地域の方や警察署・消防署と連携を図りながら、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の個性・生活面・価値観などの全体像を把握・理解し思いを受け止めている。また、その人の立場に配慮し、プライバシーを損ねないよう支援している。	人格の尊重やプライバシーに配慮することを、勉強会、研修会を通して周知を行っている。利用者との共用スペースでの会話の内容や声のトーンなどに気を付け、援助が必要な時でも、相手の気持ちを考えて、確認することを基本にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話などから、その人の思いや何を望んでいるかを察して、自己決定が出来るよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人が持っている能力が発揮できるよう、自立支援を促し、時間や内容にとらわれず、臨機応変にケアを提供している。また、様々な場面で希望に添う事で生き生きとした生活が望めるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の要望を取り入れ、季節に応じたおしゃれを支援し、また、好みの洋服で外出できる様配慮している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	ご利用者に好みのメニューを伺ったり、旬のものを提供している。また、ご利用者の方にも盛り付けなどお手伝いを行って頂き、楽しい食事ができるよう努めている。	メニューは利用者の好みや、食べやすさ、栄養のバランスを考えて職員が作成している。自分のペースで食事ができるようにし、その人の食べる力に合わせて調理している。職員も利用者と同じものを食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食後に記録し、摂取状況を共有している。(トロミ剤使用・必要時刻み対応)。また、水分は小まめに提供し、1日を通して確保出来る様に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状況に応じて、口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。できる方へは、声掛けや見守りを行い、自立支援にも力を入れている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、身体状況レベルに応じた支援をしている。又、ご利用者一人ひとりに合った羞恥心への配慮も行っている。	排泄動作の維持・向上を目標にし、個人の排泄パターンを把握してトイレに誘導している。排泄に失敗してしまっても、羞恥心に配慮した対応に努め、原因をミーティングで検討し、細やかな取り組みに繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者一人ひとりに合った水分補給や適度な運動を取り入れている。また、個々に応じた予防に取り組み、食事に牛乳やヤクルトなどの乳製品を提供し、腸内環境を整え、自然排便になるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はできるかぎり一人ひとりの希望やタイミングに合わせている。また、入浴の時間なども、体調等に合わせて調整し、声掛けを行いながら楽しく入浴して頂いている。体調の変化がある場合は、個々に添った足浴や清拭を行っている。	入浴を嫌がる人はおらず、入浴剤を使用したり、好みのシャンプーを使っている。ヒートショックを防ぐため、脱衣所と浴室の温度差をなくすようにしている。入浴ができなかった方には、清拭や着替え、次の日に入浴等状況に応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、その人のペースに合わせている。また、日中はなるべく活動的に過ごして頂き、安眠できるよう支援している。眠れない時は、暖かい飲み物を提供したり、職員と会話やテレビを見たりと、安眠できるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々に綴り、説明書や申し送り等行い、理解するよう努めている。誤薬を防ぐ為、ダブルチェックと声だし確認をし、服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、ご本人の能力に合わせ、食事作りのお手伝い、掃除・洗濯物干し等をして頂いている。敬老会、誕生会、クリスマス会等行事を取り入れ、楽しみ事の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響もあり、日常的に外出する機会は少ないが、ご家族との受診や外出等の支援を行っている。	近くの公園などに、職員と一緒に散歩や衣類の買い物に出かけている。季節を楽しめるよう、事業所前で栗拾いをしたり、気分転換やストレス発散などの機会としての外出を大切に、歩行が困難な方でも出来るだけ外に出るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご利用者の金銭管理はホームで行っている。希望があれば、外出し買い物支援を行っている。一緒に外出が難しい場合は、希望を伺い、職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話ができるよう対応している。また、年賀状を出し、親睦、交流が途切れないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにソファスペースを設け、和やかで家庭的な雰囲気と安心感のある空間を提供している。また、壁面には、作品等を展示し季節感を取り入れた安らぎの環境づくりを心掛けている。	利用者は日常、共有スペースで過ごす方が多く、一人ひとり好みの場所で、その方のペースで過ごして貰っている。歩行や移動のための動線を確保するため、不要なものの整理や、動線に椅子や手を着くところを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファスペースを設け、ご利用者に、いつでも自由に歓談して頂いている。又、畳スペースは、ご利用者同士ゆっくり寛ぎ交流が保てられるよう工夫、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	ご家族へ相談し、馴染みの物や写真・小物を飾って頂き、希望があれば備品を設置している。また、ご本人作成の作品集(カレンダー・塗り絵・刺し子)を展示し、居心地の良い、その人らしい空間となるよう配慮している。	身体状況に合わせて、ベッドなど家具の配置をその人に合わせている。自分の居室を間違わないよう、入口に名札や絵の目印を付けている。避難時の利用者の状況などが分かるよう、避難完了プレートを現在作成している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	戸惑いのないよう各居室の入り口にご本人の好きな写真やお花の名前や絵などを貼って、分かり易くしている。また、浴室やトイレ等は、見やすい大きな文字を表示し、安全性に配慮した環境づくりに努めている。		